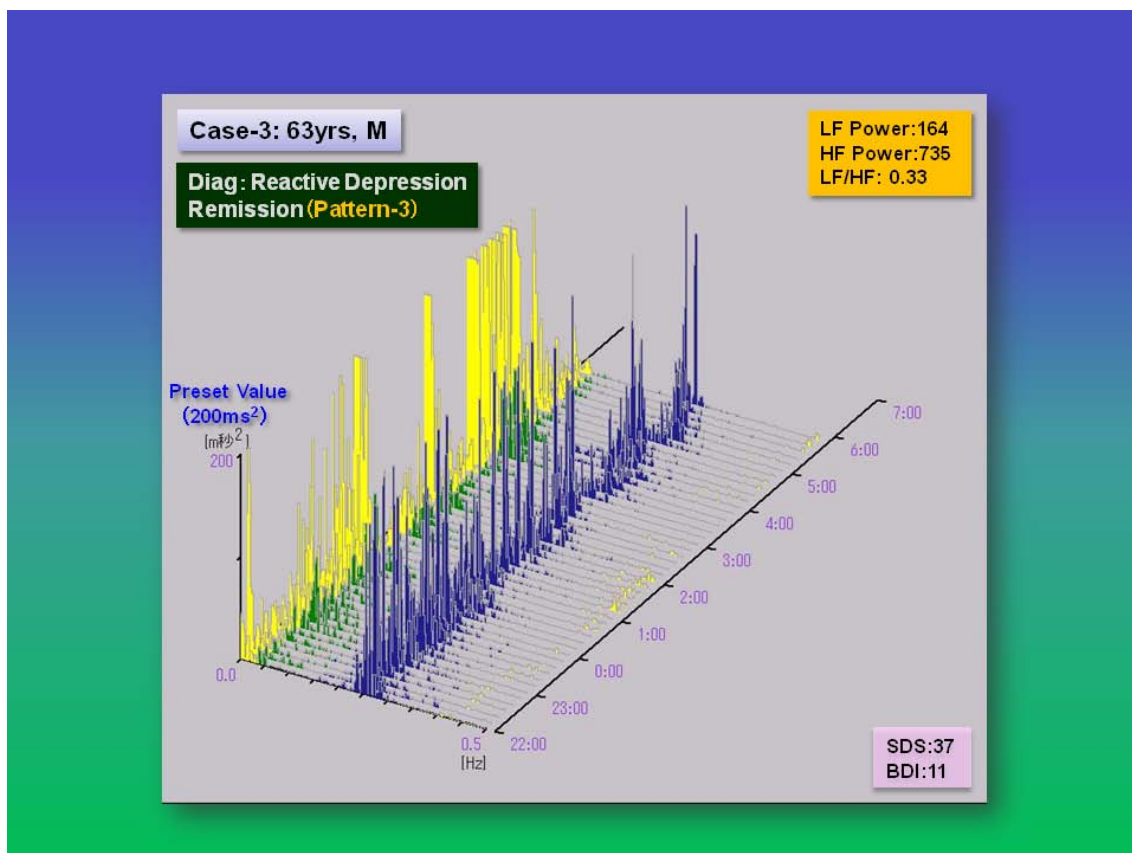


Bさんの場合

診断名: 反応性抑うつ

抗不安薬主体の薬物療法を行い、「うつ状態」が改善した時点で記録して得られた3DST。「うつ状態」が改善しますと、夜間のリラックスした眠りを約束してくれる副交感神経の活動は、活発化します。ちなみに、Bさんの交感神経と副交感神経の活動値は、LF成分164ms²、HF成分735ms²であり、HF成分がLF成分に比較して明らかに優勢です。3DSTは、山下分類の典型的なパターン3と言えます。また、副交感神経活動を意味する青色の波形は、ほぼ規則的な間隔で上下動していますが、この楕型をした副交感神経活動は、睡眠の深さに関係するとされています。



「Bさんの MPEG2 の特徴」

夜間、排尿のため目を覚まし、再び眠りに入られるまでの数分間の心電図です。動画は、副交感神経が優勢なため、多くスクリーン中央部から右側へ右側へとシフトしているのがお分かりいただけると思います。